



特別支援教育における 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた 指導実践に関する調査研究 最終報告

総合教育センター 特別支援教育担当

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由とその背景

- (1)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月)
- (2)新学習指導要領の公示
- (3)埼玉県特別支援教育教育課程編成要領の作成

2 研究の目的

- (1)特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の要点を整理する。(1年次)
- (2)特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導を実践するにあたっての課題や授業改善の視点を整理する。(1年次)
- (3)特別支援教育に携わる教員に向けて、授業改善のヒントになる指導事例及び実践報告をまとめ、広く発信する。(2年次)

3 研究の方法

- (1)文部科学省資料および先行研究等の分析を行う。
- (2)教員に対して「主体的・対話的で深い学び」に関する意識調査を行う。
- (3)「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導実践の授業研究を行う。
- (4)授業実践を報告書にまとめ、広く教員等へ発信する。

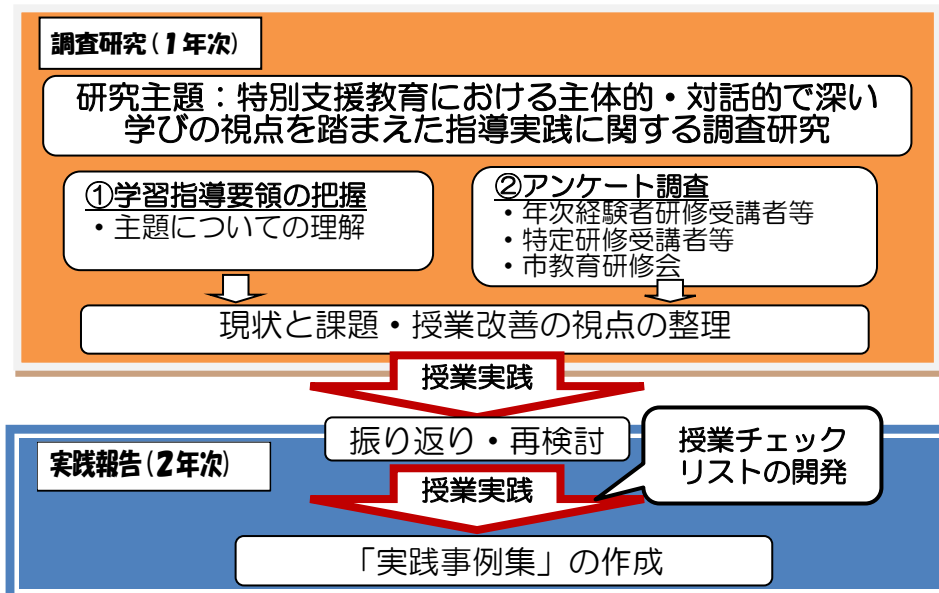


図1 本研究の全体像

II 理論編 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点的理解～

1 主体的・対話的で深い学びについて(概論)

「主体的・対話的で深い学び」について理解しておくべき基本的な事項を中教審答申、学習指導要領等からまとめた。

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点到立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現して学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

2 特別支援教育における主体的・対話的で深い学びについて

特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの実践上の留意点についてまとめた。

① 本質を踏まえて、広く柔軟にとらえる

主体的・対話的で深い学びの姿を、限られた特定の行動や振る舞いに限定せず、本質を踏まえて広く柔軟にとらえる必要がある。

例：グループでの言語によるやり取りが難しい

- ・児童生徒が活用可能な代替コミュニケーションを用いてやり取りをする。
- ・言語をあまり介さずに、児童生徒がお互いの行動を見て、自らの行動を判断するモデリング学習を促す。

② 学んだことを般化させる過程（※）を通して、深い学びをとらえる

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら…（中略）「深い学び」を実現する

これに加えて、特別支援教育では

学んだこと（知識・行動など）を日常生活、学校生活、他教科の学びへ般化させる過程を通して、深い学びをとらえる。

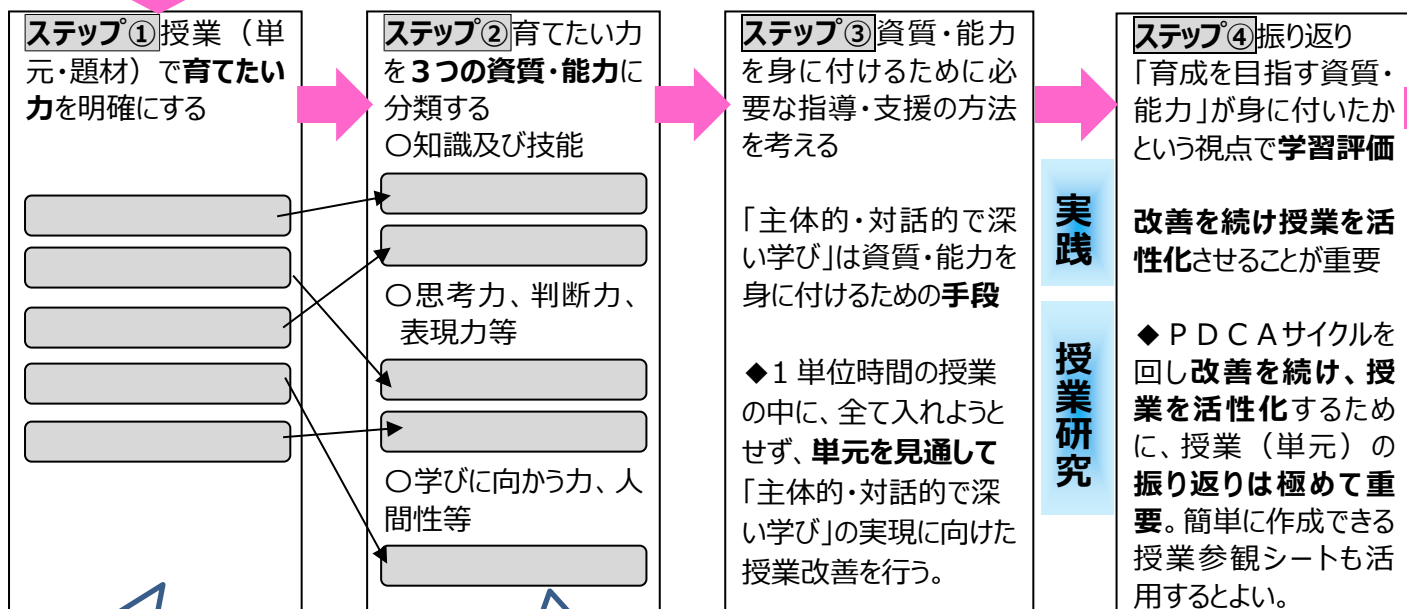
※般化…ある特定の場面での適切な行動が、別の必要な場面でも行えるようになること。

資料として、知的障害以外の児童生徒を指導する際の教育的対応の基本、主体的・対話的で深い学びの実践に当たっての留意点もまとめて掲載

Ⅲ 実践編 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業実践へのアプローチ～

授業を構想する際の
アイデアを紹介

実際に授業（単元・題材）を計画する際の手順、留意点等



どのような力を育てたいかを考えるのが先。「主体的・対話的で深い学び」については、資質・能力を身に付けるための手段として検討する。

知的障害の場合、分類する際、特別支援学校指導要領解説各教科等編に掲載の目標・内容の一覧表が参考になる（P550～610）。

★【右ページ①参照】「主体的・対話的で深い学び 授業改善チェックリスト15」は、授業での具体的な指導や支援を考える際、また振り返りの際に活用できる。

★【右ページ③参照】「授業参観シート」は授業研究等で授業を公開する際に活用でき、参観者が具体的な授業改善の視点をもって参観できる。

「主体的・対話的で深い学び」授業改善チェックリスト 15

用途に応じて、3つの様式を作成！

① 15の項目とポイント解説

「主体的・対話的で深い学び」授業改善チェックリスト 15

※先生方の授業づくりや授業の振り返りに御活用ください！

主体的	対話的	深い学び
1 環境設定 2 見通し 3 意欲づけ 4 実態に合わせた指導 5 振り返り	6 自分の考えを整理する工夫 7 グループワーク(役割) 8 情報のやりとり 9 場の設定 -① 活動を共に楽しむ場 -② 友達・教師からの評価の場 -③ 自分の考えを再形成する場	10 試行錯誤 11 教科の見方・考え方のつながり 12 学ぶことの楽しさへの気づき 13 自己選択・自己決定 14 学びの活用 15 生活に生かす工夫
1 学習に向かいやすい環境設定ができているか (自発的な学びを促す) 2 活動の見通しを持てるよう手がかりとなるものを提示しているか (目標、流れ、内容、活動時間等) 3 場面に合った意欲を高める工夫をしているか (言葉かけ・頑張りシール・即時評価等) 4 児童生徒の実態に合わせて指導しているか (体験的な活動・スモールステップ・教材教具等) 5 振り返りの時間を確保し、次につなげる工夫をしているか	6 自分の気持ちや考えを整理し、表現する工夫があるか (自己との対話) 7 グループワークが工夫され、個々の役割が明確になっているか 8 情報を得たり、考えや思いを伝えたりするためのツールを提示しているか 9-①一緒に活動したり、表現したりすることを楽しくする場の設定があるか 9-②友達や教師からの評価の場面の設定はあるか (即時評価、相互評価) 9-③先哲の考え方や友達との意見等を手掛かりに、自分の考えを再形成する時間を設定しているか	10 課題解決に向けて試行錯誤する工夫があるか 11 教科の見方・考え方を、自分の経験や今までの学習と結び付けられるよう指導しているか 12 「学んでよかった」「楽しかった」と学びの楽しさや価値、意欲に気付けるような工夫があるか 13 児童生徒が自分で考え、自己選択や自己決定ができる場があるか 14 今まで学んだことを活用できる場が設定されているか 15 学んだことを今後の生活や将来に生かすことを意識出来るよう工夫しているか

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

学習指導要領から

③ 授業参観シート(下図は記入例) 右側の参観者メモは様式あり 指導案の展開と組み合わせて、簡単に作成可能

実際の記入例

本時の共通目標

- ・机上を整理し、安全に活動に取り組むことができる。【知識及び技能】
- ・自分の役割や活動を理解し、主体的に取り組むことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・「できました」の報告、「へーだーい」の要求、「教えてくださーい」の相談を、相手に伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・意欲を持って最後まで作業に取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

本時の展開

配時(分)	学習活動	指導上の留意点	評価の観点	準備物
5	1 挨拶 2 本時の確認 【主1】 【主2】	・ホワイトボード、作業ケース、足型等の視覚支援を事前に設置する。 ・ホワイトボードの席表を示しながら、点呼と各自の作業内容を確認する。 ・文化祭で地域の人に頒布するために製品を作っていることを伝える。 ・iPadを示しながら、本時の作業時間を伝える。		・ホワイトボード ・作業ケース ・パル ・セリフ表 ・iPad
30	3 準備 【主1】 【主4】 【主8】	※「3 準備」上の留意点 ・個別の作業時間観察して、必要に応じて指導。 ・個別の言葉かけや指示では、次の行動に関わる視覚支援に気付かせる内容に徹する。 ・生徒の良い行動や新しく見られた行動は、即時評価する。 ・生徒からの相談の表出が見られた場合は、即時反応する。 ・一人で作業を進めることができるようになってきた生徒には、意図		・整理表 ・手順表 ・道具セット

指導案
本時の展開

参観者メモ

主体的	対話的	深い学び
1 環境設定 2 見通し 3 意欲づけ 4 実態に合わせた指導 5 振り返り	6 自分の考えを整理する工夫 7 グループワーク(役割) 8 情報のやりとり 9 場の設定 -① 活動を共に楽しむ場 -② 友達・教師からの評価の場 -③ 自分の考えを再形成する場	10 試行錯誤 11 教科の見方・考え方のつながり 12 学ぶことの楽しさへの気づき 13 自己選択・自己決定 14 学びの活用 15 生活に生かす工夫
教師の働きかけ・手立て 授業者より(参観のポイント) ○授業全体を通しての視覚支援(それによって、主体的な学び、活動になっているか。) ・作業ノートの活用 ・作業の分担 ・作業の役割分担等の説明短い(繰り返しなく)すぐに作業に入る生徒が多かった		
子供の様子と言葉 参観者メモ ・作業を進めている ・チェックをして進み具合を自分で確かめている。 主1 主2 (主3) 主3 対7 主2		

実践事例集の中から、それぞれの項目に当てはまる指導・支援の工夫を紹介。児童生徒の学びの姿をイメージしやすくなっています。

メモ欄の上部に、チェックリストの項目を示すことで、具体的な授業改善の視点をもって参観できます。



■単元（題材）における主体的・対話的で深い学びの視点

《主体的》

・既習事項の確認による確かな学力の
円の中心、半径、図形の学習の中
文には様々な用語が出てくる。それを

《対話的》

・話したくなる場の設定
AとBでどちらの道のりが長いのか？自
己？等、自分の考えたことややり方を
り返し設定した。

《深い学び》

・発表会の背景画作り
習得した作図の力を使いたくなる場を設定した。試行錯誤を繰り返しながら学びを活用して背景画を
仕上げていく喜びが味わえるようにした。

■本時の展開（○/○時間目）

本時の共通目標

- コンパスを活用して作図し、すすんで背景画作りをしようとする
- 手本を見て円を使った模様のかき方を見出すことができる。

本時の主体的・対話的で深い学びの視点

配時 (分)	主な学習活動 【チェックリスト】	・指導上の留意点 ◎評価の観点	準備物
2	1 はじめのあいさつをする。 2 フラッシュカードに取り組む。 【主4】	本時の展開の中でも、「授業改善チェックリスト」の番号 に対応させて、主体的・対話的で深い学びに関わる指 導・支援の工夫などを記述しています。	
5	3 作図のやり方を確認する。 【主2】 【対8】	・作図の力を活かして合同発表会の背 景画を作ること知らせる。 ・メモの活用を促す。 ・分かん る。 ・指先 を活用させる。 ◎コンパスを活用して作図し、すすんで 背景画作りをしようとしている。（主体的 に学習に取り組む態度）	背景画の下描き 作り方の拡大図 色画用紙 (メモ欄付き) 手順書 穴の開いたも のさし 握ってかける コンパス
10	4 課題を知る。 【主2、3】	・手本の円の半径と中心の位置を考え させるようにする。 ◎手本を見て円を使った模様のかき方 を見出している。（思考・判断・表現）	手本
28	5 課題①に取り組む。（円の作 図） 【主1、3、4】 【対9-①、②】 【深10、11、12、13、14】		
	6 課題②に取り組む。（円を使っ た模様作り） 【主1】 【対6、8】 【深10、11、14】		

<実践に当たってのポイント>

- ・必ずしも1単位時間の授業の中で主体的・対話的で
深い学びの全てが実現されるものではありません。単元全
体を見通して、どの学習場面でどんな学びを設定すれ
ば、目標の達成につながるかという観点で検討します。
・一つの手立てが「主体的な学び」「対話的な学び」など
重なることもあります。
・「深い学び」として、単元を通して「教科の見方・考え
方」をどのように働かせるか、を意識します。

実践事例集

8つの実践事例を掲載

小学校（自・情、知的）「算数」
中学校（自・情）「技術・家庭」
中学校（自・情、知的）「生活単元学習」
特学校・小学部（知的）「体育」
特学校・小学部（知的）「国語・算数」
特学校・中学部（病弱）「音楽」
特学校・高等部（知的）「家庭」
特学校・高等部（知的）「作業学習」

左図は実践事例の「読み方」を解説
するページ。先生方が実践するとき
のポイントも紹介。

- 「授業改善チェックリスト15」
の番号とリンクした記述！
- 本時の指導案だけでなく、単
元を見通した実践！
- 次の授業（単元）の改善に
つなげることを意識した実践！

IV 研究の成果と今後の課題

1 成果

○研究協力委員による授業実践から、次のような点が明らかになった。

【主体的な学び】・・・実態把握に基づいた環境設定が重要である。

- ・視覚的に分かりやすいことで主体的な活動になった。
- ・活動の「手順書」の作成と、児童生徒が使用する用具を工夫することで主体的な学びになった。

【対話的な学び】・・・言葉のやり取りのみに限定せず、児童生徒同士の関わり合いを意識することが重要である。

- ・児童生徒同士の対話が難しくても、教師との対話の中で「その子の考えを広める」ことができた。
- ・児童生徒間の相互評価（感想を伝えあう、アドバイスをする）による新しい気づきが生まれた。

【深い学び】・・・学びの活用、今後の生活に生かすことが重要である。

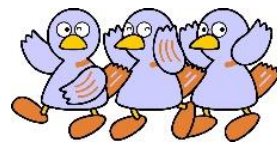
- ・ある学習をしているときに、これまでの学びが生かされていることに気付いた。そのことを称賛し、児童生徒に「自分が
できることが増えた」と意識させることができた。
- ・「一度学んだことを想起させる」声掛けが、有効だった。

2 課題

○2年間の研究をまとめた報告書・実践事例集をどのように学校現場で活用してもらうかが今後の課題となる。ホーム
ページでの発信の他、総合教育センターの研修での活用など様々な機会を通じて実践事例集を学校、先生方に広
めていく必要がある。

○「主体的・対話的で深い学び」の言葉のみが独り歩きしてしまい、例えば「主体的な」「対話的な」活動を取り入れる
のみにならないように啓発していく必要がある。

○「主体的・対話的で深い学び 授業改善チェックリスト15」、授業参観シートを活用した研修等を行い、「目標と評
価をどう結びつけ、児童生徒にどのような力をつけるか」を意識した実践となっていくよう啓発する必要がある。



研究報告書は、埼玉県立総合教育センターのホームページから閲覧できます。

⇒<https://www.center.spec.ed.jp>